

【報告】
幼保小連携・接続を巡る千葉市の現状
～実態調査の結果から～

平成28年12月10日
千葉市幼保小連携・接続検討会議

はじめに:

「幼保小連携・接続実態調査」の概要

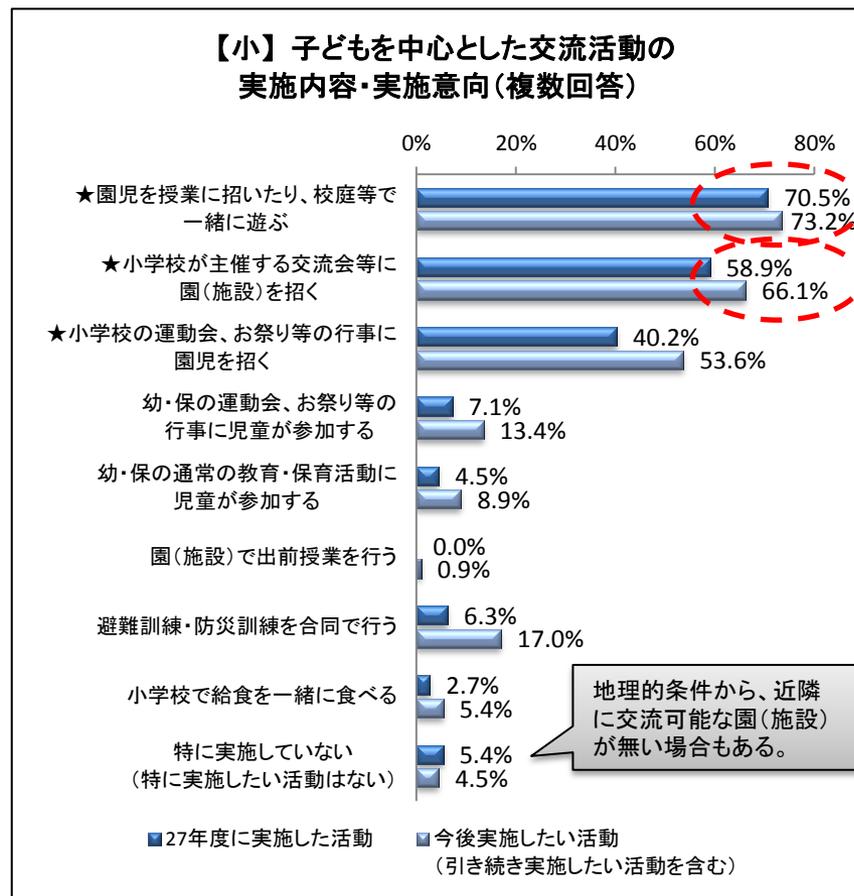
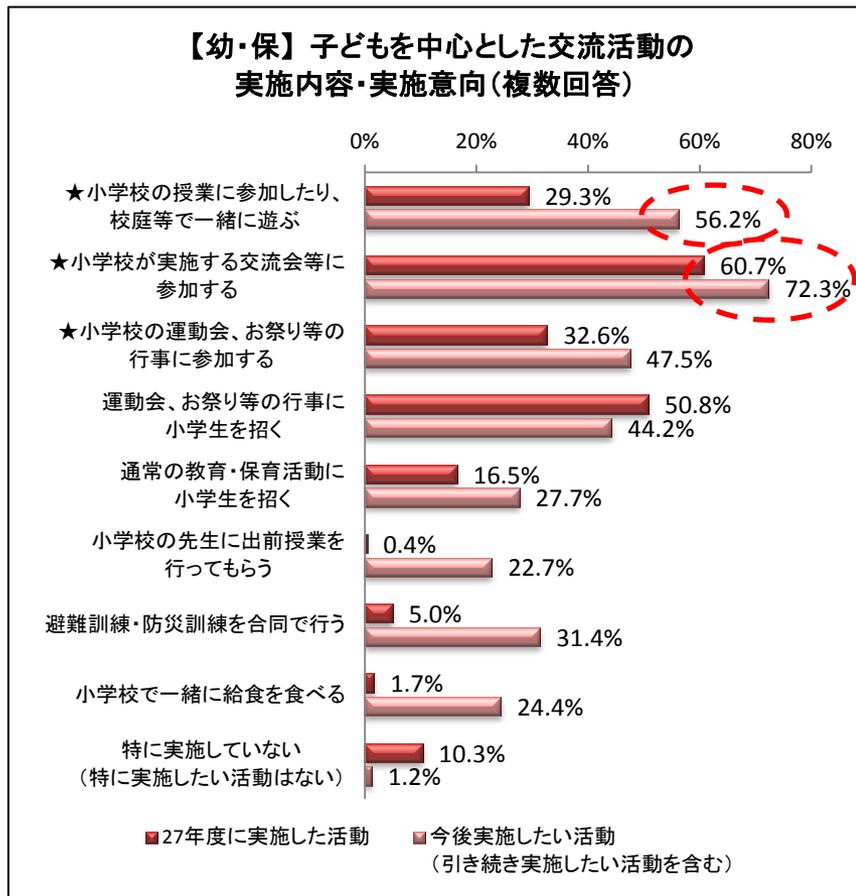
目的	千葉市の幼稚園・保育所・認定こども園(以下「幼・保」と記載)と小学校との連携・接続に関する現状及び意識を把握し、今度の具体的方策の検討資料とする。
実施方法	アンケート調査(電子メール又は書面にて配布・回収) ※幼・保及び小学校に対し、それぞれ調査票を作成。
調査項目	<p>①子どもを中心とした交流活動について</p> <p>②要録の作成・活用について</p> <p>③教職員同士の連携活動について</p> <p>④幼児期と小学校との円滑な接続について</p> <p>⑤家庭や保護者への支援・啓発について</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">本報告で採り上げる項目 ⇒ ①、③、④</div>
調査結果	年度内に調査報告書を取りまとめ、公表する予定。

	幼・保調査	小学校調査
実施期間	平成28年7月～8月	平成28年9月
調査対象	市内全ての幼・保:242園(施設) <内訳> 私立幼稚園:85園※ 民間保育園:90園 市立保育所:57園 認定こども園:10園(うち市立2か所)	市内全ての市立小学校:112校
回答数	242件 (100%)	112校 (100%)

※廃園予定の園等を除く。

1. 子どもを中心とした交流活動：①実施状況と今後の意向

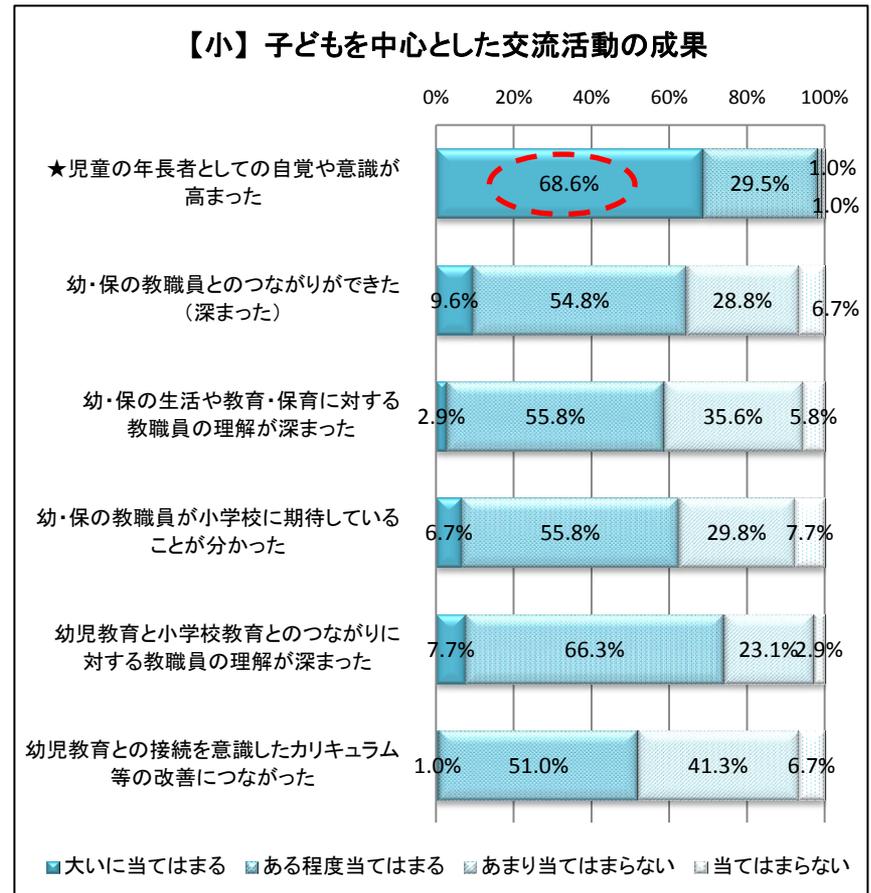
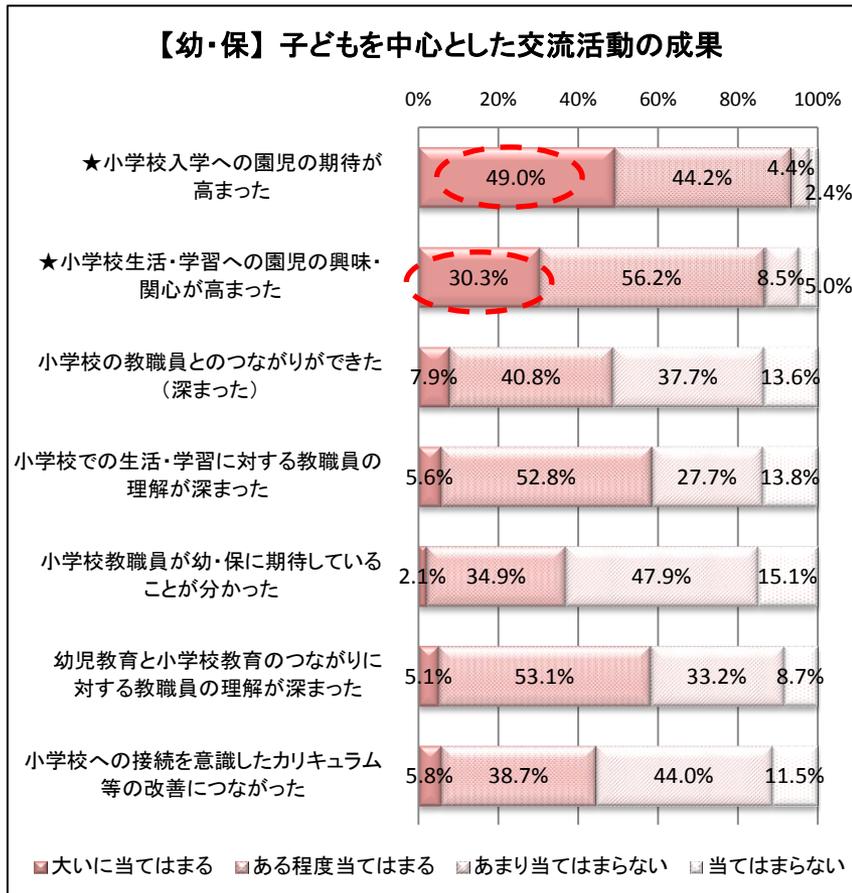
※主な項目を掲載



- 既に多くの幼・保と小学校の間で、小学校を活動の場とする交流が実施されている。
- 今後についても、幼・保、小学校ともに、小学校を活動の場とする交流のニーズが高い。(特に幼・保はより多くの園(施設)が活動への参加を希望。)

1. 子どもを中心とした交流活動について：②活動の成果

※主な項目を掲載



- 幼・保においては、入学に向けた期待や、小学校生活や学習に対する興味・関心の高揚に大きく寄与している。
- 小学校においては、児童の年長者としての自覚や意識の向上に大きく寄与している。

1. 子どもを中心とした交流活動：③今後の方向性

- 「指定校」とその近隣園(施設)との間での継続的な取組みが根付き、既に多くの幼・保と小学校の間で交流活動が実施されている。
- 今後についても、幼・保、小学校ともに、小学校を活動の場とする交流の実施意向が強い。(特に幼・保はより多くの園(施設)が活動への参加を希望。)
- 幼・保においては園児の入学に向けた期待や小学校での生活・学習に興味・関心の高揚、小学校においては児童の年長者としての自覚や意識の向上に、大きく寄与している。



◆ **引き続き、小学校とその近隣園(施設)との関係を基礎として、活動の活性化・定着化を図る。**

◆ **活動に期待する効果を再確認し、よりよい方法を検討することで、幼・保と小学校それぞれにとっての効果と互恵性を高めることを目指す。**

※新設民間保育園も可能な限り交流の機会を得られるよう、こども未来局と教育委員会との連携が必要。

※全園児の進学先との交流は困難(下記参照)であることを前提に、効果的な活動内容とすることが必要。

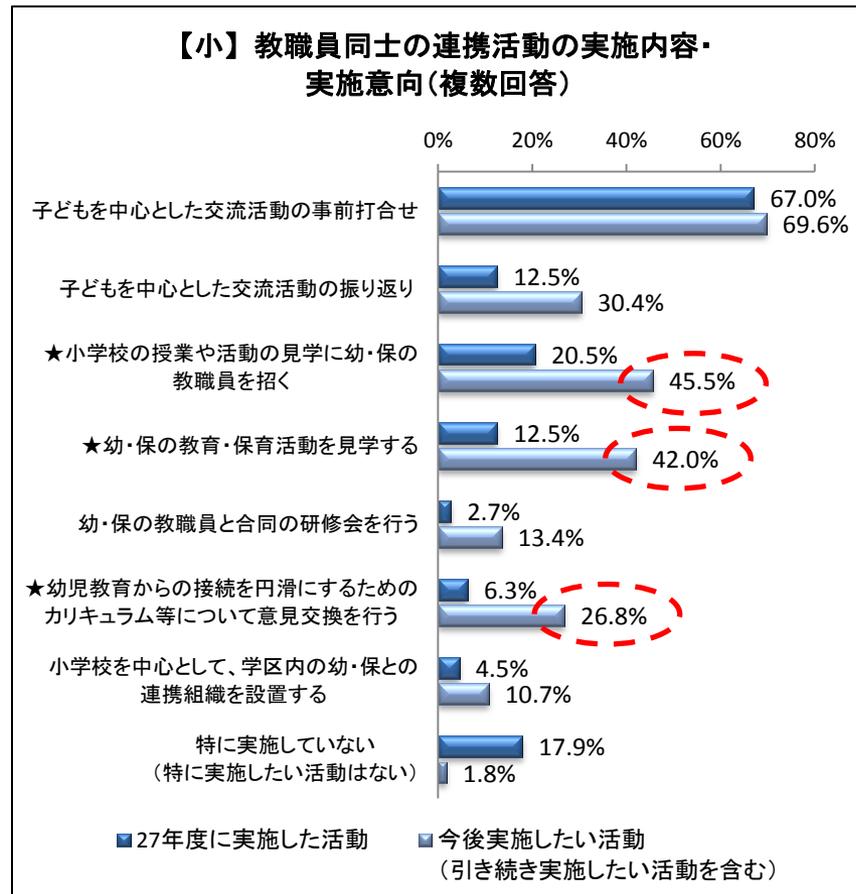
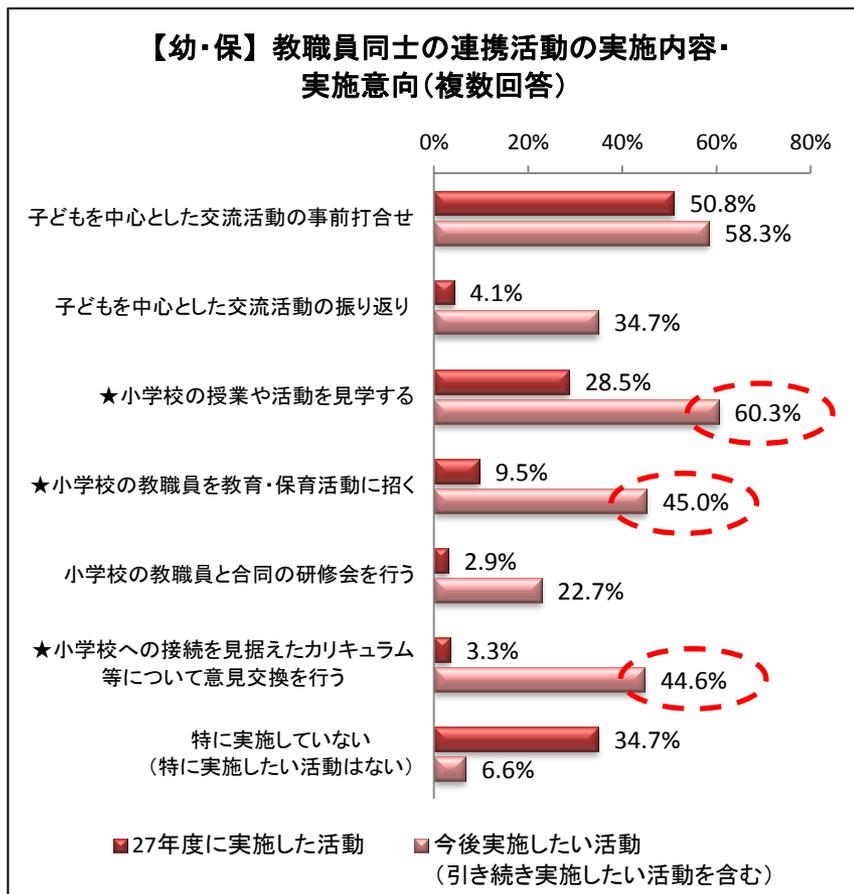
<調査結果における「卒園児の進学先」(28年4月)>

【幼・保】 1園(施設)の卒園児が入学した小学校の数 … 平均8校 (最少:1校~最大:32校)

【小学校】 1校の入学児童の出身園(施設)の数 … 平均15園(施設) (最少:3園(施設)~最大:38園(施設))

2. 教職員同士の連携活動：①実施状況と今後の意向

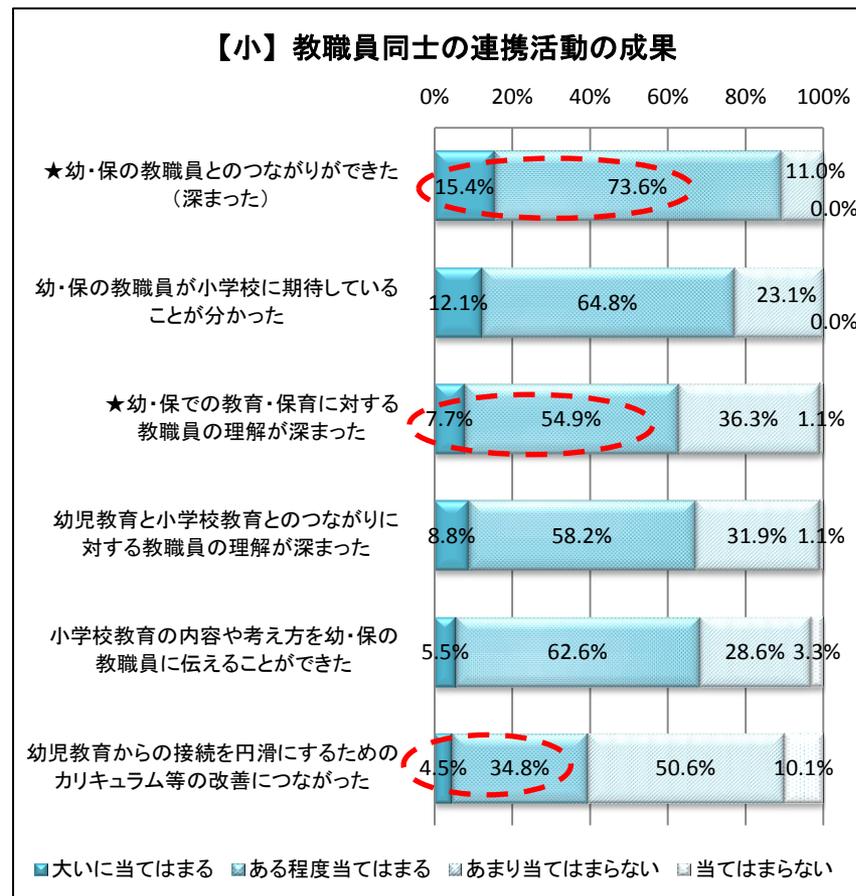
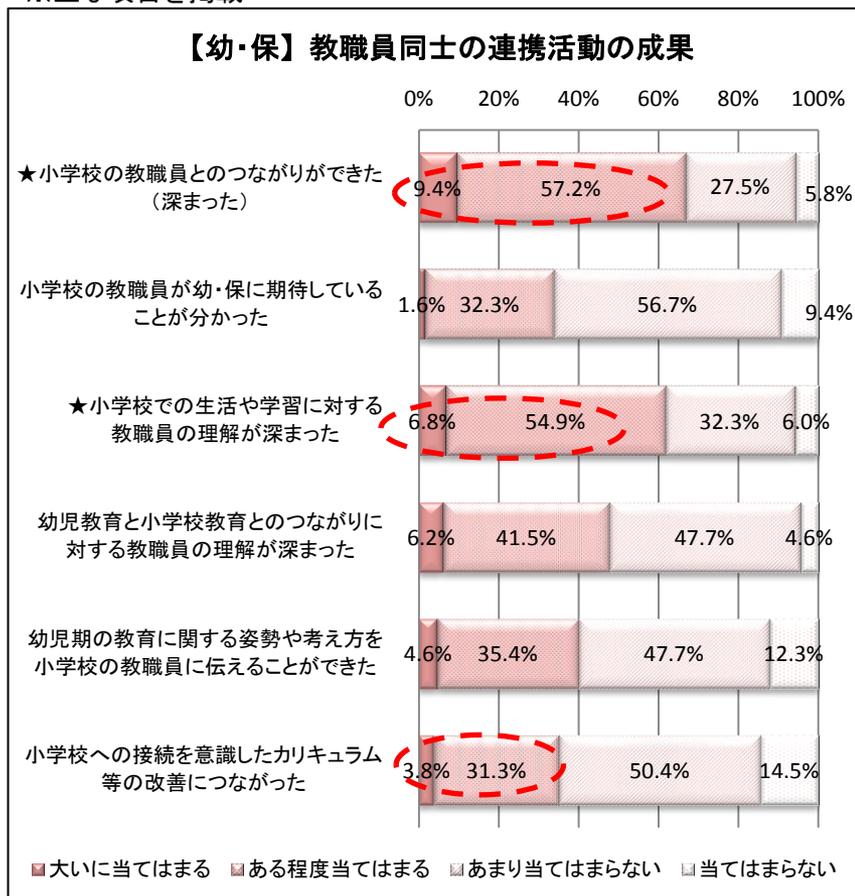
※主な項目を掲載



- 幼・保と小学校がお互いの教育・保育の内容や生活について理解を深めるための活動（相互の見学等）に対するニーズが極めて高い。
- さらに、接続期のカリキュラムについての意見交換に対するニーズもある。

2. 教職員同士の連携活動：②活動の成果

※主な項目を掲載



- 既に連携活動を実施している園(施設)・校においては、教職員同士の関係構築や、教育・保育の内容や生活に関する相互理解を深める機会となっている。
- 接続期のカリキュラムの改善については、効果を実感している園(施設)・校は少ない。

2. 教職員同士の連携活動：③今後の方向性

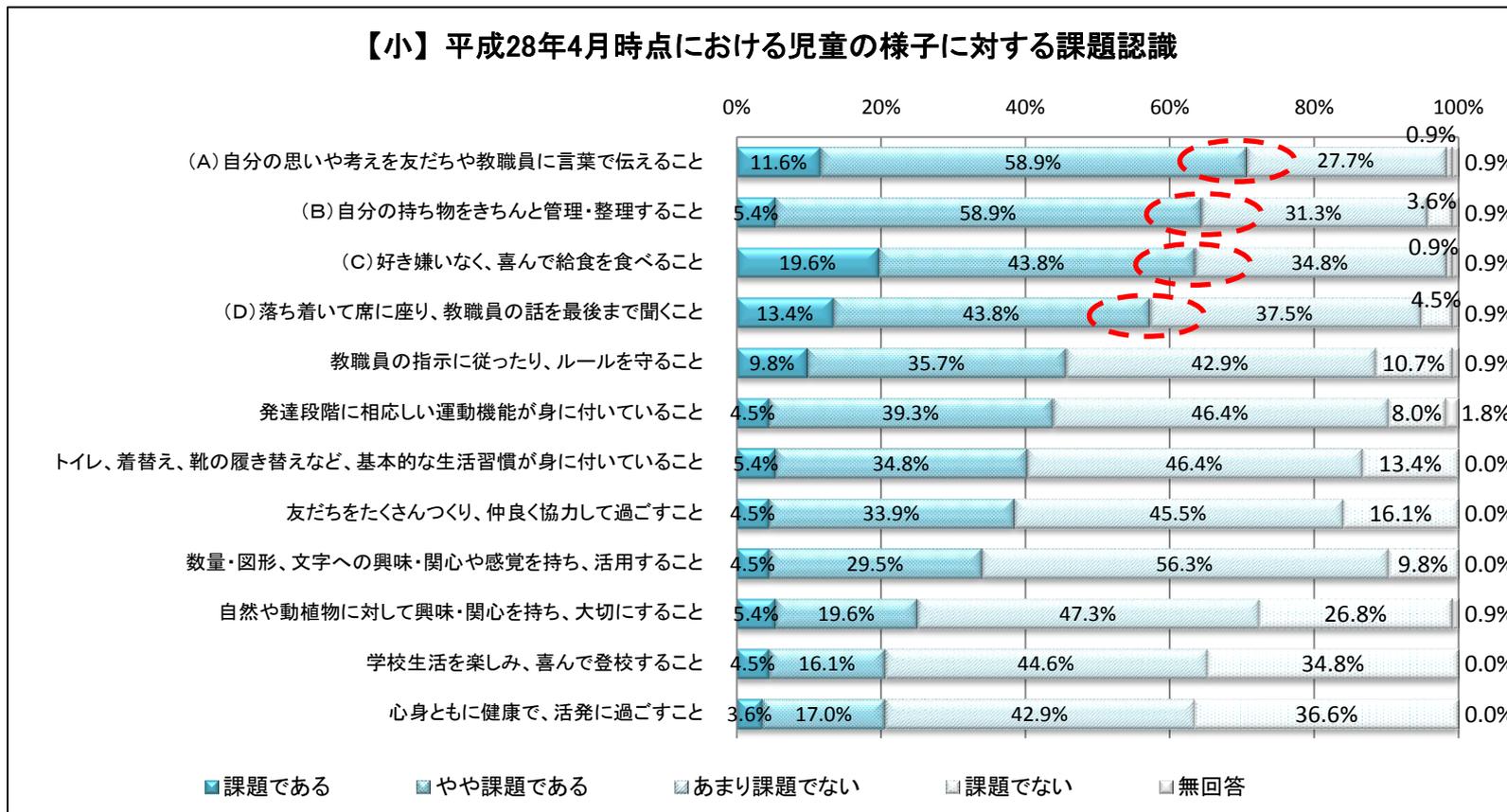
- 教職員同士の連携活動については、これから普及を図っていく段階にあるが、幼・保、小学校ともに、お互いの教育・保育の内容や生活について理解を深めるための相互の見学などの活動に対するニーズが極めて高い。
- また、さらに一歩進んで、幼児教育と小学校教育の接続を円滑にするためのカリキュラムに関する意見交換を行うことについても、幼・保、小学校ともにニーズが高い。
- 一方、例えば、小学校生活科の研修を近隣の園(施設)で実施(見学・意見交換等)したことにより、幼児教育と小学校教育とのつながりに対する園(施設)教職員の理解が深まった事例など、個別の関係構築による先進的な取組みが効果を上げているケースもある。



- ◆ お互いの教育・保育の内容や生活に対する理解を深めるために、幼児教育と小学校教育との接続の強化を目的とした連携活動の普及・定着化を図る。
 - ◆ 接続期のカリキュラムを主な着眼点として、相互参観・意見交換・合同研修などの幼・保と小学校との「学び合い」の場の一層の充実を図る。
- ※ 障害のある児童等の円滑な接続(特別支援教育、引継ぎ等)については、別途検討する。

3. 幼児期と小学校との円滑な接続：

① 入学時点の児童に対する小学校の課題認識



- 「課題」、「やや課題」の合計で見ると、小学校の半数以上が、「(A) 自分の思いや考えを友だちや教職員に言葉で伝えること」、「(B) 自分の持ち物をきちんと管理・整理すること」、「(C) 好き嫌いなく、喜んで給食を食べること」、「(D) 落ち着いて席に座り、教職員の話最後まで聞くこと」について課題であると感じている。

3. 幼児期と小学校との円滑な接続：②具体的取組み【幼・保】

Q)特に年長児の教育・保育課程やカリキュラムの編成・実践において、幼児期の育ちや学びを小学校入学後の生活や学習につなげることをどの程度意識しているか(択一)

A)大いに意識している:43.0% / ある程度意識している:50.0% ⇒ 計93.0%

Q)幼児期における育ちや学びを小学校入学後の生活や学習につなげることを意識して具体的に実践している取組み(自由記述)

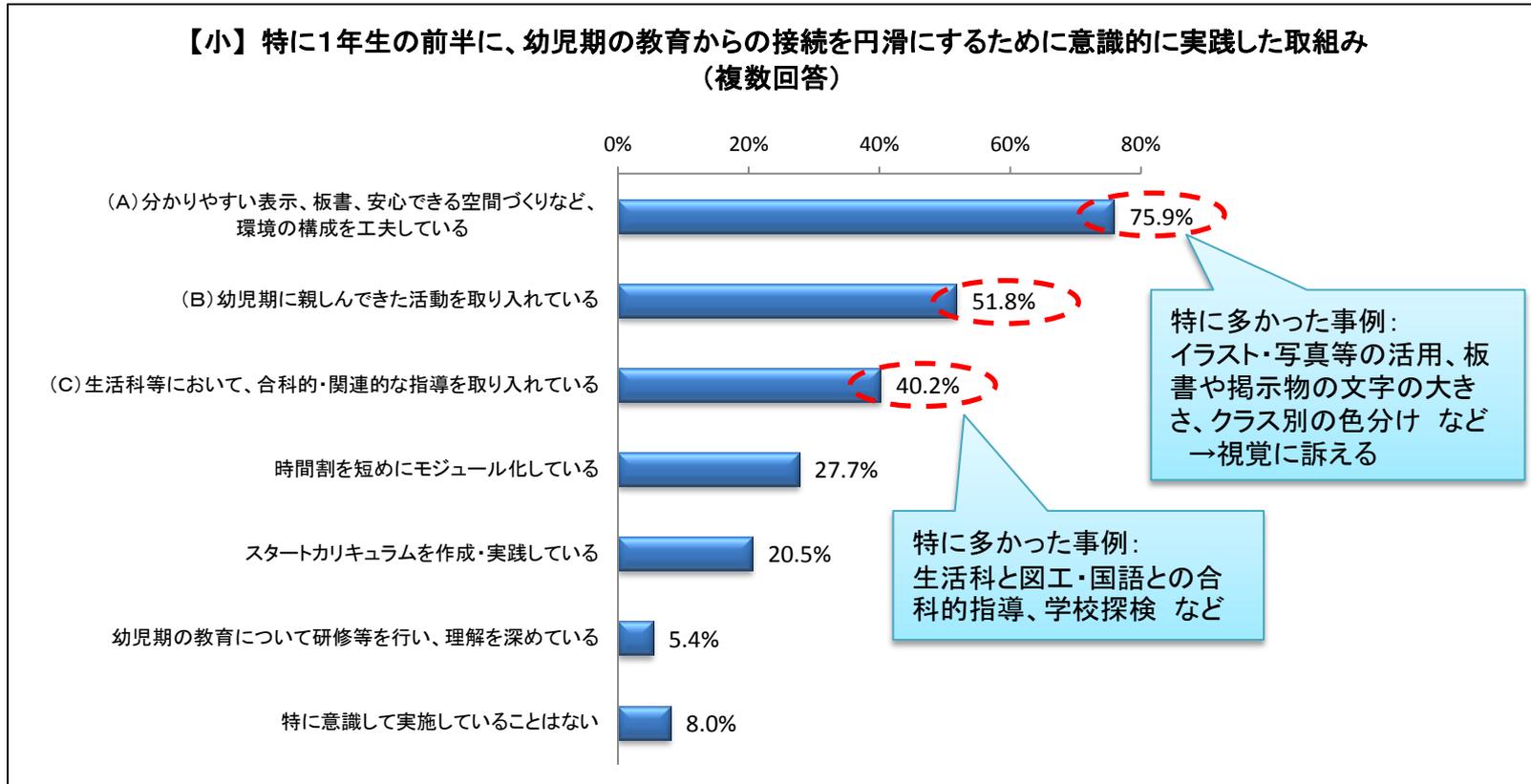
A) ※キーワードを抜き出したものであり、実際の回答そのものではない。

先生の話聴く / 話し合う(他人の意見を聞く・自分の考えを伝える) / あいさつをする / 基本的な生活習慣(食事、排せつ、和式トイレ、着替え、身支度、午睡、等) / 道具(鉛筆、箸、はさみ等)の使い方 / 自主性・自立性 / 意欲・向上心・自信 / 目標・達成感 / 集中する / 友だちとのかかわり / 集団活動・集団での遊び / ルールを守る / 時間への意識 / 見通しを持った活動 / 当番活動 / 言葉(絵本、読み聞かせ、等) / 文字 / 数・量 / 自然との関わり / 運動・体力づくり / 危険や身の安全への意識

・・・ほか多数

➤ 各園(施設)が、小学校への接続を意識して、さまざまな取組みを実施している。

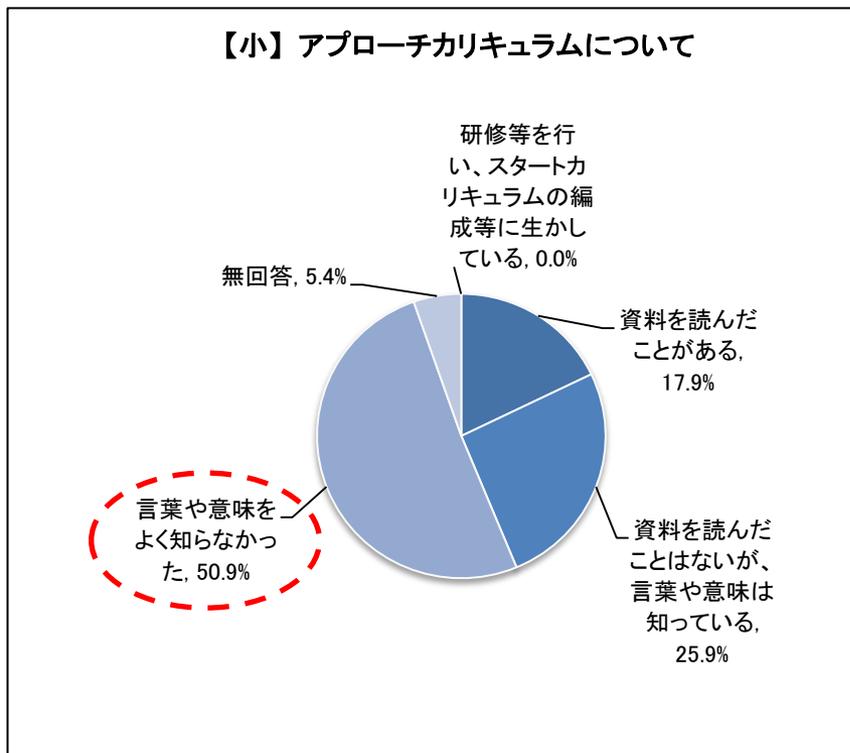
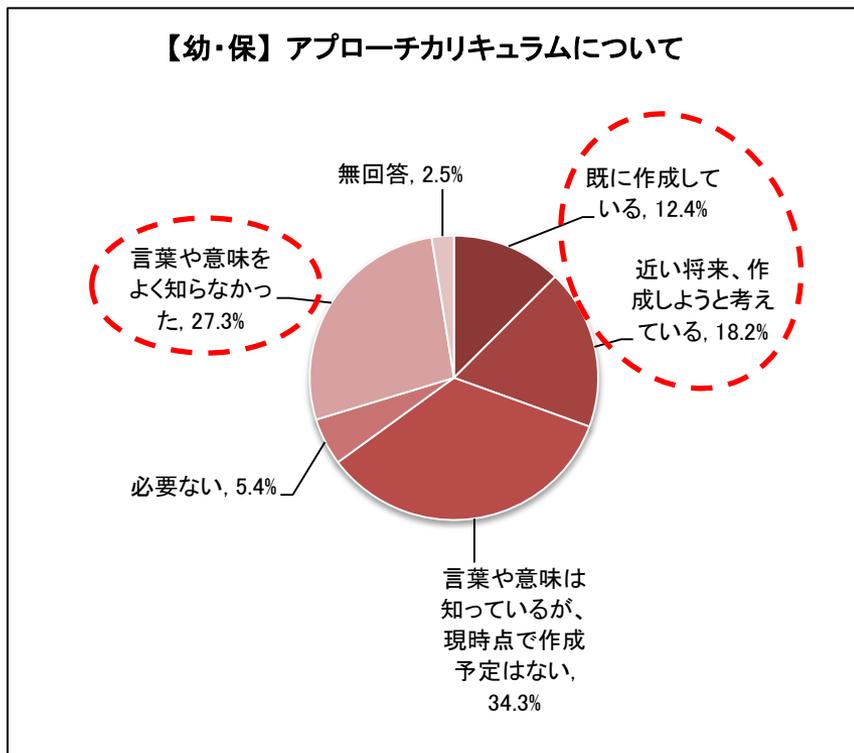
3. 幼児期と小学校との円滑な接続：②具体的取組み【小】



- 「(A)環境構成の工夫」は約75%、「(B)幼児期に親しんできた活動」は約50%、「(C)生活科等における合科的・関連的指導」は約40%の小学校が取り入れている。

3. 幼児期と小学校との円滑な接続:

③アプローチカリキュラムについて



- 現時点では、アプローチカリキュラムの認知度は十分とは言えず、幼・保の約1/4、小学校の約半数が「言葉や意味をよく知らなかった」と回答している。
- 一方で、幼・保の約3割が、アプローチカリキュラムを既に作成済み、又は作成を目指している。

3. 幼児期と小学校との円滑な接続:

④ 今後の方向性(アプローチカリキュラムの普及)

- 入学時点における児童の姿について、小学校がさまざまな課題を感じていることが調査結果から読み取れるが、これらの課題認識が幼・保と共有化される機会は少ない。
- 幼・保、小学校いずれにおいても、各園(施設)・校がそれぞれの考え方に基づき、円滑な接続を意識したさまざまな具体的取組みを行っている。
- 現時点では、アプローチカリキュラムの認知度は高くないが、既に作成済みの園(施設)や、作成を目指している園(施設)もある。



- ◆ 接続期のカリキュラムを軸とした教職員同士の連携活動を通して、卒園時点の幼児の姿について、幼・保と小学校との認識の共有化を図る。
- ◆ 幼児教育と小学校教育との接続を意識した取組みを幼・保が意図的・計画的に実施できるよう、各園(施設)におけるアプローチカリキュラムの作成を支援し、その普及を図る。

その手法として、

- ◆ 園(施設)の先進的な事例等も参考としつつ、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」に結びつく具体的な活動の事例集として、「モデルカリキュラム」を作成する。
- ◆ アプローチカリキュラムの実践・普及を促進するため、モデル実施園(施設)を設定する。

3. 幼児期と小学校との円滑な接続:

⑤今後の方向性(「(仮称)幼児教育アドバイザー」の活用)

- モデル実施園(施設)等におけるアプローチカリキュラムの作成・実践に当たっては、園(施設)のニーズに応じて、専門的知見に基づく助言、園内研修等の支援を行うことが有効。
- アプローチカリキュラムの効果を高め、広く普及させていくためには、モデル実施園(施設)と、他園(施設)や小学校との「学び合い」が重要。



◆ 主にアプローチカリキュラムの作成・実践に関する助言等の支援や、モデル実施園(施設)における取組みの成果の普及を促進するための仕組みとして、「(仮称)幼児教育アドバイザー」の活用を検討する。

◆ 本市における園(施設)の多様性(種別、設置主体、規模等)を踏まえつつ、「千葉市幼保小連携・接続検討会議」等において、本市に相応しいアドバイザーのあり方(配置方法、人材等)を検討する。

【スケジュール】 平成28年度～29年度:試行実施 ⇒ 平成30年度～:本格実施

※(仮称)幼児教育アドバイザーについては、文部科学省の委託を受け、先駆的に実施する。

おわりに・・・

- **幼稚園も、保育所も、認定こども園も、卒園した子どもたちは皆、小学校へと巣立って行きます。**
- **幼児期の育ちと学びが小学校で、そしてその後の人生で、遺憾なく発揮されるよう、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校とが連携し、上手に「バトンパス」しましょう！
(リオ五輪の400Mリレーのように！)**
- **そして、千葉市の子どもたちのために、幼保小連携・接続を起点として、幼児教育の質の向上を図っていきましょう！**

千葉市幼保小連携・接続検討会議 委員名簿

(平成28年12月時点)

委員	梅乃園幼稚園 園長 杉本 卓美
	松ヶ丘幼稚園 副園長 小針 千尋
	すずらん保育園 園長 松浦 伸治
	まどか保育園 園長 宇野 直樹
	千葉市立幕張第二保育所長
	千葉市立天台保育所長
	千葉市立都小学校長
	千葉市立幕張小学校長
	千葉市教育委員会学校教育部指導課長
	千葉市教育委員会学校教育部教育センター 所長
	千葉市こども未来局幼保支援課 幼児教育・保育政策担当課長
千葉市こども未来局幼保運営課 保育所指導担当課長	
助言者	植草学園短期大学 福祉学科 教授 佐藤 慎二
	千葉大学 教育学部 教授 松寄 洋子